

団塊の世代とは？

～ 学生運動から 2007 年問題まで ～

終戦直後に生まれ、戦後の日本を支えてきた団塊の世代が、ついに 2007 年から順次、定年退職を迎えます。学生運動、高度経済成長、第二次ベビーブーム、バブル景気、リストラなど、戦後日本のすべてを見てきた団塊の世代とはいったいどのような世代なのでしょう？

今回の展示では、「学生運動」と「2007 年問題」に焦点を当て、皆さんが団塊の世代を知る上で参考になると思われる資料を集めてみました。

【 団塊の世代 】

第二次世界大戦直後の日本において 1947 年から 1949 年（1952 年、または 1955 年生まれまで含まれる場合もあり）にかけての第一次ベビーブームで生まれた世代のこと。

作家の堺屋太一が 1976 年に発表した小説『団塊の世代』で、鉱物学で一塊の単位で採られる鉱物を指す「ノジュール（nodule）」の訳語を、世代を表す言葉として用いた事により登場した言葉である。

平成 19 年 2 月・3 月 1F 展示
学習院大学図書館

I 団塊の世代に関する資料

1. 団塊一人ぼっち / 山口文憲 [請求記号 S081.2/67/496 (大学図・開架)]

「団塊の世代について、特に明るい未来を語るつもりもないし、反対に気分が落ち込むような暗い話をするつもりも無い」というスタンスで書かれた、団塊の世代のこれまでとこれから。巻末には団塊世代関連年表がついています。

2. 嵐の群像: 団塊世代の[現在] / 森哲志 [S301.3/287 (大学図・開架)]

朝日新聞東京版に掲載されたシリーズ企画「仕事の風景」(1999 年 9 月から 2000 年 8 月まで)と併せて、団塊の世代の何たるかを探る 1 冊。団塊の世代が直面した転職や辞表にまつわるエピソードを多数収録。

3. 団塊世代を総括する / 三浦展 [S301.3/352 (大学図・開架)]

団塊の世代とは何か? という視点から、団塊の世代の生きてきた時代を総括しています。巻末には、団塊世代年表(ライフステージも記載)、団塊世代を理解するための文献ガイド(計 74 冊)付き。

4. 昔、革命的だったお父さんたちへ: 「団塊世代」の登場と終焉 / 林信吾/葛岡智恭 [S301.3/353 (大学図・開架)]

「かつて消費資本主義を育てる経済成長に、その推進役としてあってマスプロ教育に対して異を唱え、戦った」団塊の世代が、現在の社会に対しては非革命的な状況を憂う 1 冊。団塊の世代がこれから考えなくてはならない問題が提起されています。

5. 中年って何? / 三田誠広 [S367.11/62 (大学図・開架)]

「この本は、いまや中年となった団塊の世代の現況と老後について考察する、ということを書き始めたのだが、書いているうちにこれは大変なことになったと思うようになった」と作者があとがきで述べているように、社会全体の高齢化が招く問題とその解決策を探る 1 冊。

II 学生運動の記録

1. 全国学園闘争の記録 I: 日本の大学革命 1 [374.2/29/1 (大学図・書庫)]

2. 全国学園闘争の記録 II: 日本の大学革命 2 [374.2/29/2 (大学図・書庫)]

3. 全国学園闘争の記録 III: 日本の大学革命 3 [374.2/29/3 (大学図・書庫)]

4. 東大解体の論理: 日本の大学革命 4 [374.2/29/4 (大学図・書庫)]

5. 全共闘運動: 日本の大学革命 5 [374.2/29/5 (大学図・書庫)]

6. 青医連運動: 日本の大学革命 6 [374.2/29/6 (大学図・書庫)]

1~3 巻は、各大学でおきた闘争がどのような経緯を辿ったかをまとめた記録編。4~6 巻は、各組織が発行した資料や論文を基に、運動を支えたそれぞれの理論がまとめられた理論編となっています。

7. ゼンガクレン：革命に賭ける青春 / 猪野健治 [379.1/26 (大学図・書庫)]

運動が激化していく状況の中、リアルタイムで当時の学生たちを追った1冊。学生運動の激化から全学連の結成、彼らが目指したものについて時系列に沿ってまとめられています。

III 学生運動を扱った文学作品

1. されど われらが日々 / 柴田翔 [Bunshun/し 4/1 (大学図・開架)]

生きることの虚しさの感覚を軸にして、一つの時代を共にした何人かの男女の大学生の生の悲しみを造型した不朽の青春文学。第51回芥川賞受賞作品。

2. 僕って何? / 三田誠広 [Kadokawa/み 7/2 (大学図・開架)]

“大学ではいつの間にかセクトの争いや内ゲバに巻き込まれたり、年上の女性と同棲したりしている。僕って一体なんなのだろうー。” 第77回芥川賞受賞作品。

3. パルタイ / 倉橋由美子 [Shincho/く 4/26 (大学図・開架)]

パルタイとは政党を意味するドイツ語ですが、60年安保時代の日本共産党のことを指しています。ひとり女子学生がいったんはパルタイに入ったものの、脱退を決意するところまでを描いた作品。第43回芥川賞候補作品。

4. 憂鬱なる党派 / 高橋和己 [913.7/1187 (大学図・書庫)]

書名となっている憂鬱なる党派とは、60年安保時代の日本共産党を指すと言われていています。激烈な時代の変化に翻弄されながら、新たな己を見つけようとしながら、破綻していく人生を描き、団塊の世代に大きなメッセージを与えました。

【 学生運動 】

1946年に全日本学生自治会総連合（全学連）が組織されて、1960年の日米安全保障条約改定をめぐる反対運動（安保闘争/安保紛争）、ベトナム戦争反対などの運動を展開した。

基本的に反帝国主義かつ反スターリン主義の立場であり、アメリカはもとよりソ連や中国など既存の共産主義体制にも批判的で、国内的には日本共産党と激しく対立した。

【 学生運動用語集 】

内ゲバ = 同一もしくは近い党派内で行われた抗争のこと。

* ゲバとはゲバルトの略で、肉体的衝突を意味した。

ゲバ棒 = ゲバルトの際に利用された武器である角材のこと。

セクト = 党派を意味し、革マル派、中核派などの政治組織を指す。

革マル派 = 日本マルクス主義学生同盟革命的マルクス主義派

中核派 = 日本マルクス主義学生同盟中核派

全共闘 = 全学共闘会議

いちご白書 = 某大学の紛争を描いたアメリカ映画（1970年公開）。

IV 団塊の世代の歩んできた時代

1. “太陽族”の季節：新旧混在の時代（証言の昭和史8）[S210.8/178/8 (大学図・開架)]

この資料のタイトルにもなっている“太陽族”とは、石原慎太郎氏（現東京都知事）が「太陽の季節」（第34回芥川賞受賞作品）で描いた新感覚の若者世代のこと。無秩序な行動や、映画に出てくるようなファッションが話題となりました。

2. “ニッポン株式会社”出帆す：経済大国への道（証言の昭和史9）

[S210.8/178/9 (大学図・開架)]

団塊世代を中心として、戦後の日本が歩んだ高度経済成長期の社会をまとめた1冊。団塊の世代が20歳前後となる頃には漫画ブームが起り、「巨人の星」、「明日のジョー」といった名作と呼ばれる漫画が相次いで発表されました。

3. 昭和の時代：高度経済成長期から現在まで、50年間の軌跡

[S210.8/575 (大学図・開架)]

団塊世代が生きてきた高度経済成長期から現在までの、50年間の軌跡をまとめた1冊。当時の写真（白黒が多い）が並べられ、昭和の時代を視覚的に捉えています。

4. 浅間山荘事件の真実 / 久能靖 [363.81/27 (大学図・書庫)]

日本テレビのアナウンサーとして、事件現場で実況放送をした著者が、当時の知られざる事実を明かし、全国民を震撼させた浅間山荘事件の全容に迫ります。

V 2007年問題に関連する資料

1. 団塊の世代「黄金の十年」が始まる / 堺屋太一 [S30.13/361 (大学図・開架)]

「団塊の世代」という言葉の生みの親でもある著者が予測する黄金の十年。しかし、「これまで団塊の世代が抱いてきた価値観を変更しないと、もう時代の変化に対応できませんよ」という警告も含まれています。

2. 団塊サードウェーブ：新しい大人文化が生まれる / 博報堂エルダービジネス推進室

[S301.3/359 大学図・開架]

ファーストウェーブ（10代後半～20代前半：1960年代後半）、セカンドウェーブ（30代前半：1980年代前後）の次に来るサードウェーブをマーケティングの視点からまとめています。

3. 団塊世代・新論：<関係的自立>をひらく / 天野正子 [S302.1/165 (大学図・開架)]

これまで団塊の世代と「塊り」として括られてきた団塊の世代が自らの顔を持って生きる「個」の時代が始まるとして、各種調査を基に自立の側面からまとめた世代論。

学習院大学における学生運動（参考）

0. 時代背景

昭和 45 年のいわゆる「安保闘争」へ向け、既に各大学においては過激学生の活動が活発になりだした。学習院は後発校で、他の大学と比べてみると比較的平和や秩序が保たれたほうではあったが、(中略) 自治会・サークル・外国語クラスの有志学生らは、連日のごとく反米・反日帝・反戦アピールや中教審中間報告批判などを掲げた立看を構内各所に出し、昼休みには集会、ヘルメット着用の学内デモが繰り返された。(学習院百年史より一部抜粋)

1. 全学バリケードスト（昭和 44 年 6 月 24 日）

革マル系学生を中心とする自治会が、大学に対して 6 項目(*)を掲げ、大衆団交を要求していたものの、大学側はこれを拒否していた。6 項目を認めさせたい自治会は、6 月 19 日に審議会を召集し、「六・二四全学バリケードストライキ案」を絶対多数で可決。これによりこの案を全学投票(翌 20 日・23 日)に委ねることとしたが、開票の結果、1749 名の賛成票を得て、全学ストが正式に承認された。

大学側は 24 日に学長名で全学休講を告示し、開学以来始めて 1 日ストを認めることとなった。なお、バリケードは正門、通用門、西 1 号館に設置されたが、当日のうちに撤去された。

- * ① 校規改悪反対 ② 補導課粉砕 ③ 学生心得破棄、掲示集会等の許可制反対
④ 部室管理権の獲得 ⑤ 寮の自治管理実施 ⑥ 輔仁会粉砕

2. 全学ロックアウト（昭和 44 年 10 月 16 日 - 22 日）

学習院大学では革マル系の学生が勢力を伸ばし、彼らは大学そのものを革マル系全国組織の拠点校に仕立て上げつつあった。「一〇・二一 国際反戦デー」に向けて、10 月 10 日頃より、他大学の学生の“応援”が見られるようになり、早大で全国の革マル系学生の集会があった 13 日には、学習院大学を集結地として多くの他大生が入構していた。

事態を重く見た大学側は、午後 6 時、構内の全学生に対して退去命令を出し、午後 7 時にはほぼ全員の退去が完了した。開学以来初めてのロックアウトは、翌 17 日が開院記念日であることから、18 日(土)午前 8 時まで続けられた。しかし、ロックアウトを解除した 18 日の午前午後にかけて学内デモが相次ぎ、学外学生の更なる入構が予想されたため、午後 3 時に再びロックアウトを宣言、22 日まで継続することとなった。

参考文献：

1. 学習院百年史(第三編) [G3/95 ア/3 (大学図・書庫)]
2. 学習院新聞 昭和 41-47 (縮刷版) [G93/16/151-200 (大学図・書庫)]

4. 我ら団塊世代の反論 / 広兼憲史 [S304/637 (大学図・開架)]

「課長 島耕作」の作者が、自らの著作を引用しながら、団塊の世代が槍玉に挙げられている様々な批判に対して反論しています。“僕たちの僕たち以外のすべての世代に対するこれは挑戦と反論だ”

5. 【図解】2007 年問題のすべてがわかる / 宮島理 [S330.21/547 大学図・開架]

2007 年問題が社会、市場、経済に与える影響や問題、その解決策などを見開き 2 ページにわたり、イラストと共に分かりやすく解説しています。

6. ベビーブーマー・リタイアメント：少子高齢化社会の政策対応 / 中村実ほか

[S361/180 大学図・開架]

ベビーブーマー世代(団塊の世代)が定年を迎える 2007 年以降も少子高齢化は進み、全人口の約 3 割が 65 歳以上になる 2015 年には、二人の現役世代で一人の年金世代を支える計算になります。こうした少子化社会に政策はどう対応すべきかをまとめた 1 冊です。

7. 超「団塊」：2007 年問題に立ち向かう！ / 舛添要一 ほか

[S367.11/86 (大学図・開架)]

会社を終えた団塊の世代はどこに自分の置き場を見つめるのか？という問題に真正面から取り組んだ早稲田大学オープン・カレッジの特設講座『団塊のノーブレス・オブリマージュ』の講演をまとめたもの。「ノーブレス・オブリマージュ」とは、フランス語で「高貴な者達(恵まれたものたち)の責務」を意味します。

8. 2010 年革命：団塊の世代が会社から消える日 / 谷口正和 [S675/101 (大学図・開架)]

2010 年は団塊の世代全員が「会社から消える」年であるといわれています。本格的な高齢社会がもたらす心理変化を汲み取り、市場に反映させていくという、マーケティングの側面から団塊の世代を捉えています。

【2007 年問題】

2007 年における団塊の世代の一斉退職に伴い、発生が予想される問題の総称。主に、様々なノウハウの断絶、労働力人口の減少、退職給付の負担増(企業利益の低下)などが問題視されている。

これに関連して、マーケティングの分野では退職後の団塊の世代を対象とした新たなビジネスの可能性を探るなどの動きが見られる。

担当： 運用課 白石